

0) はじめに

- 東高梁川左岸…幕府領・藩領・旗本領が錯綜する地域
  - ・幕府領…(窪屋郡) 酒津・中島・浜・倉敷・倉敷新田・安江・沖
  - ・岡山藩領…(窪屋郡) 軽部・柿木・真壁・古地・平田・子位庄・川入・四十瀬・白樂市・水江
    - (児島郡) 八軒屋・粒浦・天城・藤戸・興除新田新田をはじめ全て
  - ・鴨方藩領…(窪屋郡) 埋川・四十瀬新田・福井・吉岡・笹沖・白樂市新田
  - ・生坂藩領…(窪屋郡) 福島・大島・渋江・田之上
  - ・長谷川氏溝杭知行所…日吉庄・大内・八王寺(生坂と相給)
  - ・戸川氏帯江知行所…(窪屋郡) 羽島・五日市・二日市・加須山・亀山・有城
    - (都宇郡) 二子・宮崎 前潟・高沼・沖新田は早島・帯江の相給
  - ・戸川氏早島知行所…(都宇郡) 早島・中帯江・西田・高須賀・前潟・金弾
  - ・花房氏高松知行所…(都宇郡) 箕島
  - ・戸川氏妹尾知行所…(都宇郡) 妹尾
- 主な史料・児島郡藤戸村日笠家文書(岡山大学附属図書館所蔵)
  - …日笠武一郎(藤戸村・中疇村名主)「洪水日記」2425-4
    - 浦田・粒江・粒浦・八軒屋・黒石・藤戸・天城など黒石組(大庄屋・永山善十郎)父の祐太郎=興除新田(東疇・内尾・中疇・曾根・西疇)の大庄屋(藤戸組)
- 「高梁川嘉永洪水絵図」(早島町所蔵)…御崎宮(現鶴崎神社)神職太田梅園の作

1) 洪水と復旧の経緯

- 嘉永3年(1850)5月27日～6月2日(新暦7月6日～10日)大雨…梅雨末期の集中豪雨
- 6月朔日…柿木村・軽部村辺りで東高梁川左岸の堤防が決壊
- 6月3日午後晴れ→夜10時～12時頃安江村・四十瀬村大川堤が120間程決壊
  - 倉敷から興除新田内尾まで洪水→妹尾堤で関留、妹尾・東疇は浸水を免れる
  - …「洪水絵図」に見る各地の浸水【表1】
  - 船を出して新田の被災者を天城・藤戸の高台に避難させる
  - 倉敷代官、酒津村・安江村に出張
- 6月4日晴れ…倉敷代官、岡山藩領大庄屋と協議→杭・明俵の用意を確認
  - 夕方、岡山藩役人の先遣隊が到着
- 6月5日晴れ…武一郎、避難者に粥施行。興除新田沖堤切り放ち、水を沖の干潟に流す(18か所)
- 6月6日曇り…岡山藩郡目付金光清右衛門出張。大庄屋四十瀬村堤普請につき相談。武一郎「御普請夫役元締」になる。幕府領村々から人夫動員、安江村堤普請始まる
- 6月7日曇り…翌日より四十瀬堤普請のため人夫250人触出し

6月8日晴れ…岡山藩郡奉行福田甚左衛門出張、幕府方と協議  
 →福田の指示で興除新田境堤を切り放つ(5か所)←岡山藩は「得勝手」との批判

6月9日晴れ…祐一郎、境堤切り放ちを福田に報告→福田、倉敷方に報告、協議

6月10日晴れ…福田、葭野刈り取りを指示→夕方までに刈り取り済ます

6月11日晴れ…幕府方・岡山藩方ともに川中に水捌けのための為替川を掘る→15日まで

6月12日晴れ…明日から切口関留普請のため人夫2000人の触出し→幕府方から準備不足のために延期要請

6月13日晴れ…倉敷代官所、切口関留を16日に延期要請。興除新田4か村救米支給願書

6月15日晴れ…大庄屋中間、関留普請夫役の動員計画を決める。救米支給の連絡あり

6月16日晴れ…朝5時頃倉敷・岡山役人出張、人夫1800人で関留普請。仮関中程の8間  
 が4間掘れ込み未完成。見物1万人

6月17日晴れ…砂場為替川を川尻まで掘り浚え。仮関の掘れ込みに杭打ち。帯江方小瀬  
 戸切口を関留?→午後2時頃福田、小瀬戸堤切口について帯江方と協議。

6月18日晴れ…仮関掘れ込みを8、9分埋めたところで再び5間程切れる。見物1万人

6月19日晴れ…大川分流地点で東川を関留めるため倉敷・岡山役人が岡田・玉島と協議  
 →切口関留が済み次第取り払う約束で東川関留に合意

6月20日晴れ…湛井村の者を雇い東川関留、正午頃完了。午後2時頃より大川奥筋大雨  
 →明日の予定を早めて暮4時頃から普請開始→仮関の内にさらに仮関を築くが増  
 水に堪えられず切り払う。夜通し大雨の中作業。

6月21日午後晴れ…関留作業の目途立たず。小瀬戸堤切り払いにつき倉敷・岡山方と帯  
 江方対立、早島加勢→談示の未切り払いに合意

6月22日曇り…武一郎、夫役元締役を辞退

6月23日晴れ…武一郎、藤戸村・中疇村の作柄見分。綿作皆無、稲毛半作→村民の状況  
 調査。困窮者に救米を配る

6月24日晴れ…小瀬戸切口を帯江方が一方的に関留→役人出張。百姓集結・対峙→帯江  
 方、堤関留を切り払う

6月27日曇り…岡山で黒石組として用捨麦の願書提出。夜10時頃までに四十瀬堤留完了

6月28日晴れ…評定所で用捨麦が認められる

6月晦日晴れ…四十瀬仮関成就、本堤の普請に取り掛かる

7月朔日雨のち晴れ…本堤普請の人夫動員計画決まる→7月28日までに完了

## 2)被害状況

7月2日曇り…黒石組として被害届作成。興除新田も【表2】  
 ⇒8月27日岡山藩、幕府に被害届

- ・田畑損亡 2771町7反3畝23歩・4万1076石1斗9升6合(朱印高の13.0%)
- ・洪水高1丈3尺 ・流家1軒・潰家174軒・半潰34軒・水浸1962軒
- ・大川堤破損41か所・長さ延1186間半、用悪水川堤破損1059か所・長さ延1  
 万3877間半 ・人・牛馬の死亡・怪我はなし

12月26日損亡高再提出12万5136石9斗2升1合(朱印高の39.7%)←9月2日台風

### 3) 年貢減免願い

6月28日…用捨麦(麦年貢未納分免除)が認められる→黒石組5か村計44石3斗2升9合

7月9日…郡奉行より「作物水腐皆無地書上」提出の指示

→7月15日武一郎「無毛地願上」提出→7月16日興除新田4か村願書提出

→7月20日～25日代官による見分⇒【表3】(物成の27.8%)

9月2日大風→9月「荒畝徳取」願い→「下り米」が認められる(物成の10.4%)

【表4】、藤戸村=物成34石7斗7升1合の「徳取」願い(物成の12.5%)

11月…村々より年貢上納のための拝借銀願い提出→郡奉行郡内からの借上銀を指示

→富裕者応じず→再度要請→児島郡で銀札37貫200目借上→村々へ無利息貸付

7月4日…藤戸村洪水関係村入用割付=銀札2貫132匁7分

11月20日…嘉永3年度村入用割付=銀札2貫304匁3分4厘⇒持高1石あたり9匁1分

(前年の村入用銀札1貫719匁1分1厘、持高1石あたり3匁3分、の約2.76倍)

### 4) 普請夫役

6月8日～20日迄の動員数(仕夫)9567人…備中・児島郡の広範囲から動員【表5】

6月15日の動員計画…備中1万2000人・児島郡8000人

藩から賃米1人1日1升2合、児島郡より間銀1匁5分

7月朔日の動員計画…児島郡より4000人追加=間銀は1人1日銀札1匁を備中から出す

・人夫の雇用…味野村は72人の人夫動員を中田村利平に1人5匁で請け負わせる

→【表5】「雇人」「礼助請」…元請けから雇用を頼んだ人夫

・興除新田5か村は別枠で新田普請所へ動員…延8130人、賃米は藩から支給される1人1

日1升2合のみ、間銀なし

### 5) 救恤

・洪水直後…総社町西鍋屋による施行、武一郎ら村役人・富裕者による粥施行

・6月15日村々の願いにより岡山藩救米支給…興除新田4か村へ110俵(35石2斗)

・鴨方藩領…6月10日郡奉行廻村、笹沖御蔵から困糶147俵を水災7か村貧者へ

7月…鴨方御蔵から困米150俵を救米として支給

7月10日…大島組村々=米44俵8升、西原・大島両組村々=麦51俵2斗7

升5合を合力

・野崎武左衛門…6月16日塩679俵、6月24日米100俵を供出

・粒江村宗太郎…黒石組6か村へ扶助米20俵 ⇒民間による救恤【表6】

・端境期に備えて裏作に救荒作物…秋粟・黍は相応に稔る、蕎麦・豆类・胡麻は不作

・岡山藩…12月9日黒石組6か村へ救麦700俵



嘉永4年2月軽部・柿木・中島・渋江・白楽市・田之上・四十瀬へ救麦794俵  
3月23日藤戸村極貧者83人へ救麦40俵  
4月朔日全領極貧者救米3000俵支給→児島郡350俵  
6月11日難渋人助力寄特者褒賞【表7】…合力米麦1表につき錢200文宛

## 6) むすびー洪水と地域社会ー

①領主の別を超えた救助…白楽市村74人は観龍寺・教善寺で粥施行

早島知行所片山本太郎宅で近隣の者数百人が施行を受ける  
災害対応・復旧事業は領主の異なる村々の共同で進められる

⇔談示の重要性和領主による利害調整が不可欠

←懸案の箇所…大川堤、汐入川小瀬戸堤、興除新田境堤 etc.

②事後にも領主による他領への協力関係の確認…未来の信頼関係へ

→嘉永4年3月18日倉敷代官所より幕府領村々へ錢70貫目、私領村々へ30貫目

→同年5月岡山藩より倉敷村大橋平右衛門他1人、庭瀬藩安原貞八郎他3人、蒔田知行所池上辰治他1人、総社本町中へ礼物贈与

→嘉永3年11月8日岡山藩備中・児島郡村々へ倉敷郷宿檜屋への合力銀3貫目抛出を指示

③一度成立した協力関係も「先例」としない態度→そのつど改めて「談示」が必要

←自己の利害に対する強いこだわり

←「得勝手」という批判の回避=持ちつ持たれつの関係

…過去の経緯と未来の保障→地域で生きる「知恵」

⇔個々の局面では遺恨の残ることもある

…「洪水絵図」太田梅園の岡山藩役人への非難

…平松勇之介の福田に対する「手鈍」「手弱」という苦情、「善悪風説区々」

④ { 自力で災害に立ち向かえる家はほとんどない

災害に対する個々の村の脆弱さ

…被害を最小限に抑える努力は行われるが、領主や組合村々・富裕者の救恤・援助なくしては復興しない現実

【表1】「洪水絵図」にみる浸水

村名	水深(尺)
倉敷新田	8
八軒屋	8
粒浦	8
二日市	5
亀山	7
有城	6
五日市	5
中帯江	6
金弾	6.6
宮崎	6
西田	6.5
早島	7
前潟	5~7
沖新田	6~7
箕島	6~7

【表2】興除新田4か村の被害状況

村名	家数・一統水浸	潰家	半潰	洪水高	浸水期間
西疇	109軒	6軒		5尺	6月4日~13日
曾根	195軒	6軒		5尺	6月4日~13日
中疇	185軒	2軒		3尺5寸	6月4日~10日
内尾	190軒	3軒	2軒	3尺5寸	6月4日~10日

註)(b)より作成。

註)(d)より作成。1尺は約30cm。

【表3】興除新田4か村の田畑損亡状況

村名	村況		7月15日書上		当荒下り	
	畝数(町)	物成(石)	水腐皆無(町)	綿作痛ミ(町)	畝数(町)	物成(石)
西疇	51.0	136.94	15.0		14.89	39.80
曾根	140.7	400.32	80.4		30.48	84.26
中疇	40.4	116.09	35.2	3.2	23.06	65.43
内尾	32.8	94.42	14.5	13.8	6.27	18.30
計	264.9	747.77	145.1	17.0	74.70	207.79

註)(b)より作成。当荒分は少数点3桁以下を四捨五入した。

【表6】勇之介「洪水記録」にみる民間の扶助

扶助者	扶助内容
児島郡味野村野崎武左衛門	黒石組7か村へ米100俵 興除新田4か村へ塩400俵
児島郡小川村清兵衛	米10俵
児島郡粒江村宗太郎・秀蔵	米23俵
児島郡藤戸村大庄屋義兵衛	米50俵
児島郡西田井地村組合 同田ノ口村組合	草藁代銀札
児島郡黒石組合水損無之村	組合内水損村々へ草藁
御野郡田中・米倉・上伊福組合	興除新田4か村へ草藁4500束
備中生坂村定七郎	西原村組4か村へ米30俵
備中西原組合中	同組4か村へ米9俵
備中西原村名主多喜介	田之上・伯楽市村へ麦15俵

註)(d)より作成。

【表7】去成年洪水難渋人助力者褒賞

褒美	褒賞者
反物・料理 酒・飯	赤坂郡2人、上道郡2人 備中2人、児島郡5人 児島郡味野村野崎武左衛門
銭3貫500目	備中西原村・西阿知村12人
銭600目	児島郡粒江村1人
銭10貫目	同郡吹上村・味野村 田之浦村・下津井村29人
銭20貫目	上道郡西大寺村20人
銭5貫目	赤坂郡周匝村・黒沢村10人

註)本文註(26)より作成。

【表4】興除新田4か村の荒畝徳取

村名	願い(石)a	結果(石)b	b/a(%)
西疇	22.025	14.532	66.0
曾根	24.986	13.824	55.3
中疇	22.827	16.976	74.4
内尾	42.128	32.410	77.0
計	111.966	77.742	69.4

註)(b)より作成。

【表】岡山藩領村々から動員された四十瀬村大川堤普請夫役の人数

5

		8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
備中国浅口郡	西阿知	40	72	94	21	28	84	16	26	114	86	33	20	78
	西阿知新田		9											
	亀山			64	8			6	8	28	24			
	西原	37	38	15	16	36	31	30	67	138	167	71	39	55
	道口			110	31			74		85	43			
	富				48			6	14	20	23			
	下竹					19	9	27	13	27	26			
	占見					40		29	14	33	32			
	上竹					64		20	16	20	32			
	益坂							3	8		17			
地頭上							26	5						
地頭下							35	6		7	7			
備中国窪屋郡	浅原		27	9	3	7			8	28	18	5		4
	広江		9	37	34	40	21		1	29	25			
	生坂				31	15			14	49	48	11		12
	西坂				25	16		24		48	45	13		4
	渋江	35		28		35	20	32		53		21		53
	田之上			37	30	30	23	33		41	45	30	25	45
	三田				12	15		16	12	16	12	4		2
	川入	10		5	6	5		7	6	7	*8	*3		3
	八王寺		4	2		3				4				
	黒崎		21	9	9			9	6	11	14	4		3
	福島		35	20	7		5	4		25	19	7		8
	中田		15	12	7			13	9	22	16	5		2
	松島		34	21		36		39	25	33	32	10		8
	大島	8	12	21	7	8		17	3	16	9	6		1
	平田	25	36	6	11	13		41	5	33	34	10		7
	別府		28	21	12	12		7	9	17		4		3
	吉田		9	5	7	3		10	3	7				2
	子位庄	22		66		143		31	9	54		10		10
	水江	22	21	16					23					
	白楽市	21	40	40	29	54		38		57	52	25		71
四十瀬	5	21	24	13	38	42	32	34	41	53	63	28	70	
埋川*		24												
四十瀬新田*		81	*43	*26	*49	*9	*41	*51	*118	*105	*70	*15	*90	
白楽市新田*		46	21	26	6	4	6	23	41	36	32	15	29	
吉岡*		22		6	6	4	6	2	19	19	14		13	
笹沖*		24	11		6		8	12	46	28	13		12	
福井*		34	31	12	31	5	20	17	40	41	20		29	
備前国児島郡	粒浦												9	10
	浦田		39	31	30	21	21	15	18	21	20			37
	黒石		10	6										
	粒江		38	7	23	20	15	18	23	30	25			
	藤戸		29	30	40	12	15	13	11	28	23			
	天城									26	28	8		
	串田		30	30	17	17	9	8	6	12	12			
	菅原		30	30	10	10	11	7	3	10	10			
	福田		47	57	37	12		31	6	31	16			
	福田新田		55	75	51			16	16	44	34			
	宇野津										14			
	尾原											9		
	木見		34	34	29	18	18	3						10
	林		50	50	50		20						37	
	福江		35	15	8	12				19	19			
	彦崎		57	57	37	22	15	9		10	13			
	植松		35	34	24	16	12			8	6			
矢尾			13	7	6			8	5	7			2	
呼松								17	11					
迫川											27			
片岡											45			
川張										33		19	12	
宗津											8	19		
用吉												24	46	
宇藤木												3	20	
御料沖村	54													
礼介請										208	249			
雇人					869							215	111	116
仕夫計	279	1093	1235	800	[869]	479	872	545	1814	1678	772	[347]	[903]	9567
触出し人数	250	1980	1980	1300	1430	1905	1800	1640	1835	1776	630	310	300	17136

註)日笠家文書2425-5。数字はすべて史料のまま。仕夫計で〔 〕の数値は計算上のもの。村名の\*は鴨方藩領。四十瀬新田村の\*は埋川とも。川入村の\*は八王寺とも。